

2023年3月13日

マスク着用の考え方を見直しに関するコメント

航空連合  
事務局長 酒井 雄介

- 2023年3月13日（月）より、政府新型コロナウイルス感染症対策本部によるマスク着用の考え方を見直しがされ、行政が一律にルールとしてマスク着用を求めるのではなく、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることとなった。
- これに伴い、定期航空協会も「航空分野における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」を改定し、「利用者や旅客と対応する従業員等のマスクの着脱については、個人の判断に委ねることを基本とし、本人の意思に反してマスクの着脱を強いることがないよう周知すること」としている。
- これらの改定は、経済活動や社会活動の正常化に段階的に移行していくうえでの大きな判断であり、先んじて外国航空会社ではマスク未着用が認められてきたこととの関係や、機内等で未着用の旅客に着用をお願いする働く者の負担が軽減する観点から、評価できる。
- 一方で、各種の世論調査によれば、社会生活において半数以上が引き続きマスクを着用すると答えており、利用者間の意識の差が、利用者同士や働く者との間で新たな混乱やトラブルを生み出すことが懸念される。
- 今回の移行においては、利用者や働く者個々人の主体的な判断が尊重される環境整備が最も重要であり、事業者に対しては、空港や機内における分かりやすい周知徹底を求めるとともに、想定される新たなトラブルへの対応方針の準備や、実際に生じた場合の丁寧なフォローと事例展開を求める。航空連合は、働くものの立場から状況を注視し、必要に応じて関係各所への働きかけをおこなっていく。

以上